

積雪深データ

2011/2012 年冬期の日本各地における積雪深の変化

63 巻から始めたこのコーナーでは、冬期間の積雪状況を振り返るため、代表的な地点 (図 1) における積雪深の変化図ならびに最大積雪深とその起日を示します (図 2)。

2011/2012 年冬期は、西高東低の冬型の気圧配置が強く寒気の影響を受けやすかったため、北日本から西日本にかけて気温が平年を下回る日が多く、冬の平均気温はここ 10 年間では北日本では今冬が最も低く、東・西日本では 2006 年冬 (平成 18 年豪雪) に次いで低くなりました。12 月, 1 月, 2 月それぞれの月平均気温もすべて低く、冬に 3 か月間連続で月平均気温が低かったのは、北日本では 2001 年冬以来 11 年ぶり、東・西日本では 1986 年冬以来 26 年ぶりでした。北日本から西日本にかけての日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が多く、特に 12 月下旬と、1 月下旬から 2 月にかけては、強い寒気の影響によりたびたび大雪となりました。冬の降雪量は多くの地点で平年を上回り、低温の状態が続き積雪が減少する時期が少なかったことに対応し、冬の最深積雪の平年比は気象庁の多くの地点で降雪量の平年比に比べて大きくなり、全国のアメダスを含む 17 地点では年最深積雪の大きい方からの 1 位を更新し、ここ 10 年間では 2006 年冬 (平成 18 年豪雪) に次ぐ積雪となりました (気象庁発表)。

各地点の最深積雪深 (9 時積雪深の最大値) は、札幌 84cm (平年値 109cm, 2001-2010), 新庄 176cm (122 cm, 1981-2010 年), 長岡 207 cm (135 cm, 1981-2010) および上越 190cm (98cm, 1981-2010) となりました。ここで () 内の数値は最深積雪深の平年値とその統計期間を示しています。北海道では、岩見沢を中心とした南空知地方で豪雪でしたが、札幌の最深積雪深は平年よりも少ない状態でした。一方、上越 ((独)農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター北陸研究センター) では時間積雪深が 1985/86 冬季以来 26 年ぶりに 2 m を超え、9 時の最深積雪深も平年値の約 2 倍ほどにもなりました。また新庄や長岡でも平年を大幅に超える大雪となり、最近 10 年間では、昨冬に次ぐ 2 番目の豪雪となりました。積雪の初日と終日は、札幌は 11 月 17 日~4 月 13 日、新庄は 11 月 21 日~4 月 21 日、長岡は 12 月 10 日~4 月 18 日、上越は 12 月 22 日~4 月 8 日でした。ただし、これらの期間には途中消雪した日を含んでいます。

データを提供していただいた機関、および担当者は、札幌:(独)農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター(井上)、新庄:(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所(小杉)、長岡:(独)防災科学技術研究所雪氷防災



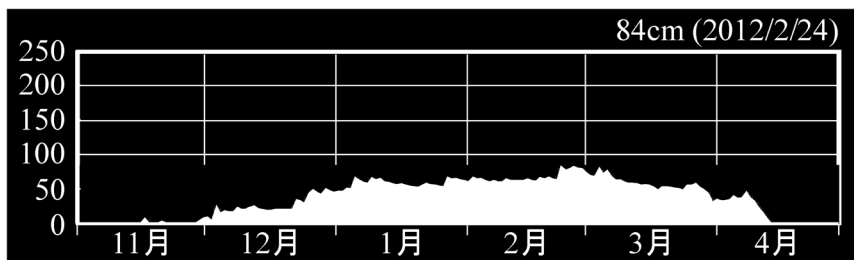
図 1 観測地点.

研究センター(山口), 上越:(独)農業・食品産業
技術総合研究機構中央農業総合研究センター北陸
研究センター(小南)です. 測定方法などの詳細
は各機関にお問い合わせください.

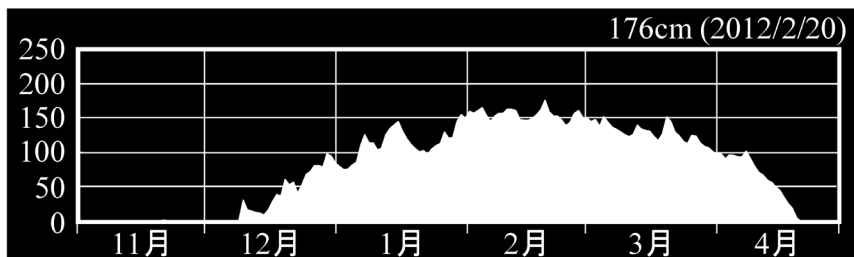
(このコーナーは, 年 1 回, 積雪期が終わった頃に
掲載します.)

(山口 悟, 井上 聡, 小南靖弘, 小杉健二)

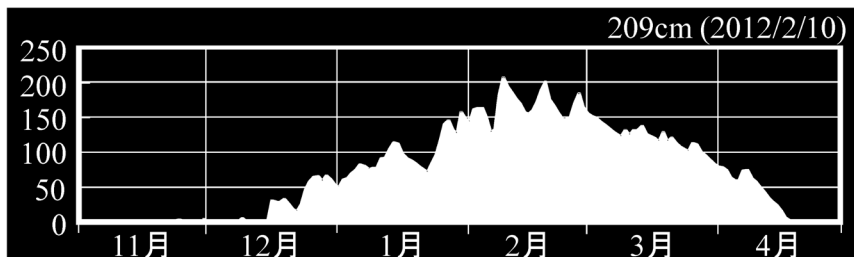
(2012 年 5 月 24 日受付)



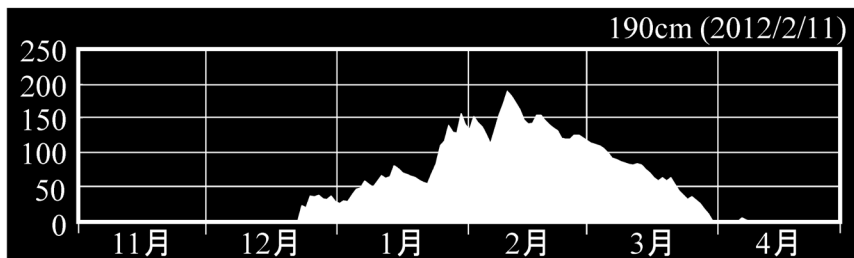
札幌市
(農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター)



新庄市
(防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所)



長岡市
(防災科学技術研究所雪氷防災研究センター)



上越市
(農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター北陸研究センター)

図 2 2011/2012 年冬期の札幌市, 新庄市, 長岡市および上越市における積雪深 (9 時) 変化 (単位: cm). 各グラフの右上には最大値とその起日を示す.